スクールアクション～SDGｓでキャリア育成と地域連携～

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校　×　生活協同組合パルシステム群馬

取組概要

生活協同組合パルシステム群馬と地域の小中学校・中等教育学校（５校）が協力し、講習と実習（体験）を通してSDGｓの理解と行動を各種推進しています。また、群馬県(庁)や地域のNPO団体とも連携した合同フードドライブやそれぞれの広報、交流などを実施し、生徒が自ら行動し直接食材を提供する体験を通して地域課題を知り行動するキャリア育成につながっています。

SDGｓの基礎を学ぶ講習の様子

野菜くずを使用した染めもの体験

基本情報

代表地方公共団体	伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校
代表民間団体	生活協同組合パルシステム群馬
他の連携団体等	群馬県(庁)　高崎市立寺尾中学校　高崎市立倉渕中学校　高崎市立倉渕小学校　群馬県草津町立草津小学校　草津町社会福祉協議会　フードバンク北関東（三松会）　フードバンクまえばし　フードバンク・M・高崎
カテゴリ	廃棄物（ゴミ）対策／教育プログラム・学力向上／地域情報・行政情報発信
事業費	４万円（2019年~2022年）※試食品や実習の材料費
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	２０１９年１０月から連携を開始、２０２０年１２月より広く参加を募る事業として取り組んでいます。

取組内容

県庁・学校・NPO・生協とフードドライブ

生徒によるフードドライブ体験

この取組で解決した課題	当組合は、生協として組合員とともに地域のくらし課題を解決する取り組みをすすめており、当グループの活動が第1回ジャパンＳＤＧｓアワードを受賞したことを機会に、地域へのＳＤＧｓの理解と行動の課題を認識しました。その最中、地域の中等教育学校にて単年度での企画とならず継続した生涯のキャリア育成をすすめる課題に接しました。ＳＤＧｓの重要性の理解は広がっているもののその理念や行動についてまだ未来を担う世代に浸透していないという課題がありました。環境保全や循環型農業などを一人ひとりが協力してすすめる考えをもとに貧困や食品ロスなどの課題を学ぶとともに、フードドライブなどの体験型授業やSDGｓ達成を目指した2030年をシュミレーションするカードゲームを実施し、計５校、のべ2000名超の生徒が参加、生徒と当組合だけでなく県職員等も参加した合同フードドライブ実施まで広がり、地域のＮＰＯ団体とも連携しています。
解決に向けた手法	計画的なキャリア教育を行っている四ツ葉学園とは、初めて連携をしたときから授業を受ける学年の設定、授業の回数や授業内容、体験内容などを事前に打合せを行っています。現在では次年度のカリキュラムを検討される時期に声をかけていただき、定期的な確認で実施ができています。他の学校には、一定のプログラムをもとに要請内容に応じて、学校のニーズや状況に合わせて無理のない方法とすすめ方で対応しています。具体的には、生徒にはＳＤＧｓを実感できるようにクイズ形式を設けるなど工夫し、体験学習については野菜の残りくずでつくる残り染め体験や、貧困と飢餓課題への行動としてフードドライブを実施しています。生協でも県と協力して合同でフードドライブを実施することで地域で取り組むことやＮＰＯ団体には贈呈式で直接的に食材を提供するとともに貧困の実情やフードドライブの意義を伝えていただいくことをもってすすめています。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	それぞれの学校でのカリキュラムの確保と活動（フードドライブ・残り染め実習）の実施（広報・検品） 生協は学習会の実施・学校間の結び付け・各作業の補助や地元メディアへのプレスリリース、群馬県はフードドライブマニュアルの作成と広報およびフードドライブの実施。NPO団体はフードドライブで集まった食材の適正な分配と学生との交流を実施しました。
地域関係者との連携方法	生徒への講習を定期的に複数年実施することにより、学校での取り組みの浸透と保護者・職員の巻き込みを意識しています。県で作成したフードドライブマニュアルを活用して県職員による学生への説明、県の広報と学生の学びへの連携も行ないました。また、生協の利用組合員への活動参加（フードドライブ）の呼びかけと実施、NPO団体への食品提供と学生への活動周知と交流を実施しています。
資金調達方法	生協の活動費
資金調達方法の補足	生協の活動費用の予算として確保しています。どの団体にとっても費用負担の少ない事業内容となっています。
事業推進上の課題・工夫	学校の講習では継続的な取り組みとなるように、単年度では講習と実習（体験）を別の日に設定し、できる限り連続講座として長期間の取り組みとしました。また、毎年実施することで、学校・地域・生徒への体験型授業の浸透をはかっています。実習は、学年ごとに内容を設定して学校のカリキュラムに組み込めるような工夫もしています。 ただし、生協の一方的な講習とならないように、群馬県(庁)、NPO団体からの取り組みの意義をお話しいただき、複数の視点から物事を考えてもらえるような工夫もしています。生徒ののみならず、群馬県(庁)、NPO団体にとってもあらたな発見があったとの声が寄せられています。 また、積極的に贈呈式などをプレスリリースすることで地域の新聞にも何度も掲載されたほか、学校間の紹介による要請があったときにはすみやかに対応し、丁寧に状況に合わせてすすめるようにしています。現在では、フードドライブ等の実施については、可能な限り合同企画とし、参加団体間での交流をはかる工夫をしています。

担当者のコメント

多くの生徒と交流を持つことで、世代間での考え方や常識となっていることの違いを感じます。一緒に行動をしている団体等の方々からも同様な感想が寄せられています。できる限り定期的に交流することが大切だと思っています。また、生徒にとっても講習だけで終わらず、具体的にフードドライブの行動や野菜くずを使用する「のこり染め」体験をすることでリアルな理解につながっていると感じています。SNSが当たり前になっている社会ではありますが、実際の経験を通じて交流していく重要性を実感しています。大人の役割としては、自分の考え方を押し付けるのではなく、正しい情報を伝え、一緒に考えていくことが大事だと思います。世代間のギャップを受け入れながらも、それが未来を築き上げていくことにつながると感じています。４年目の取り組みとなっていますが、今だに良い評価をいただくことや新たに問い合わせをいただいていることからも有意義な取り組みだと感じています。ともに行動していただいている団体等それぞれが求めていることを達成できていると思うのと同時に、相互に良い刺激を得られている取り組みであり、今後も継続的にすすめていきたいと考えています。

初フードドライブ（担当者：前列右端）

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	①地方創生SDGsの視点 継続的な学校での体験型授業により、多くの世代へのSDG s の周知と取り組みの意義を伝えることができ、それらを経験することにより未来を担うこどもたちを中心とした持続可能な地域となるビジョンにつながります。また、生協の地域組合員の商品利用による経済的基盤とフードドライブ等の支援による総合的な地域経済の活性化、地域組合員・住民や各種団体が連携した活動で期待できる社会的な交流の広がり、環境保全や循環型農業・漁業等を交流を通して推進する当組合の理念をベースとした体験型授業等による各種社会的課題への学びとその行動が総合的な相乗効果を生むと考えます。地域連携の力でそれぞれの課題解決がすすむことで地方の新たな姿が育まれ、SDG s の目標の達成に資する取り組みになっていくと考えています。 ②ステークホルダーとの連携 学校、地方公共団体、NPO、地域住民が参画している取り組みであり、フードドライブでは当該地域の配送コースに登録された組合員の参加協力も基盤になっています。また、直接的に参加されていない方々からも賛同や協力の声が寄せられています。それぞれの団体の得意分野での取り組みであることや、費用負担がほぼないことからも無理のない連携がとることができていると考えています。 ③モデル性・波及性 取り組みの内容はそれぞれの団体の基本的な活動に資する内容であり、一旦、参加することができれば普遍性の高い取り組みとなると考えています。また、多く地域新聞への掲載やTV等からの取材を何度も受けていることからも社会にインパクトのある取り組みになっていると捉えています。 実際に教員間の紹介により他の学校の参加につながっていることからも、今後も発展する見込みがある事例だと思っています。